

自立性の恢復のみが生き残りの道

——この喧騒と雑音の世界の中で——

間 弘明*

GDP（国民一年分の稼ぎ）に近い借金を抱えた国、隣国に友を持てない国、重大問題に外圧（主としてアメリカ）でしか動かぬ国、そして毎日百人もの自殺者の出る国、この国を少しでも良くしたい、これは国民すべての願いではないでしょうか。そうではあっても、多くの方は、ほど良く豊かで安全な、気心の知れた日本の現状に、日々の暮らしに忙しく、仲良し内閣の内紛や「政権交代」の騒ぎ、それに菅家利和さんの釈放や日々の悲惨な事件などを、舞台の上の出来事のようにテレビやITで、時にヴァーチャルな気持で眺めていて、いずれ総選挙になれば改めて考えようと言うことでしょうか。

それにしてもとくに近年、我々が眼にし耳にする情報や記事の大部分は、余りに劇場化ないし「技巧化」されていて、受け手の国民の印象や判断を曲げたものになっている状況は憂慮に堪えないと思う。

快い味や匂いや言葉、危ないからご用心

人間はエサで獲物をとったりして生きているにも関わらず、人間同士また人間内部の出来事となると、良さそうな事は頭から、自身に「良い事」と思いがちである。煙草や麻薬は無論だが、人間は、色や形、人の顔・形・演技についても、何故か「快」や「不快」に感じ分けているものが少なくない。そして大変困ったことに、人間が「快」と感じるものが必ずしも人間に良くないばかりでなく、むしろ「悪い」場合が多いことである。その上、この感性は、生まれて後の経験・育ちから来たもの、つまり「獲得資質」のものもあるが、人間の本性（脳）にまで、組み込まれているものも少なくないことが、最近の脳科学等で裏付けられている。

言うまでも無く、それ（快いことを良いことと思い込む人間の「本性」）は、人類の進歩の動機や要因にもなってきたことも厳然たる事実である。しかしながら、原始時代ならともかく、人間も百億にも増えて危険物も多く抱えこんだ。今日の人間社会の合意や政策について、個々のことも、全体的なことも、この人間の厄介な本性のまま動いていていいわけがないし、いわんや、この「本性」を、個人や集団が都合よく巧妙に利用する傾向が目立つのは、もってのほかである。

とりあえず最近の事例から

私のこの論文は、大変裾野の広い社会・政治の論評に発展してゆかざるを得ない。従って、今回は、最近の顕著な事例の若干を挙げる事にしておく。

さて「改革」、「エコ」、「グリーン」、「値引き」、「ポイント」・・・と言う言葉を聞けば、人は皆、「よいこと」が起きそうに思う。実際にそうであることも少なくないが、羊頭狗肉であることも、又その「一面」だけで、他方正反対——つまり「退歩」、「無駄」、「荒廃」、「減点」になることも多い。数百億円、何万人もの被害を生む、金融だまし事件が多いのも日本の特色かもしれない。金利がほとんどゼロ（これで誰がトクしているのかも判りにくく仕組まれているが）では、銀行に預けるのは「泥棒よけ」の意味しかない。そういう庶民の「欲求不満」をねらうのが、上記のサギ事件である。

欲求不満や後ろめたさをくすぐるのは、都合のよい世論を形成するには打ってつけの手段

だ。それに近年日本に蔓延した拜金主義、配金主義も、物事の判断を誤らせる大きな要因である。例えば北朝鮮は日本から「金を欲しがっている」という思い上がり、危険な事態をまねきかねない事態を生んでいる。

***ペンネーム。**

(本稿についての、御質問・御意見はUCN会が筆者に届けます。)

[このページを印刷する](#)

[トップページへ戻る](#)

UCN会